

パナソニックコミュニケーションズ「J-3000e」導入事例 学校や介護施設の連絡支援ツールとして 事業所コードレスが特定業種にも浸透



パナソニック コミュニケーションズが、事業所用デジタルコードレス「J-3000e」で業種・業務別のアプリケーション提案を進めている。学校、介護、病院、運輸業などで採用実績が伸びている。

企業向け電話システムの有力商材としてすっかり定着した感のある事業所用デジタルコードレスシステム。着実に市場へ浸透する中で、一般オフィスのワイヤレス環境構築だけでなく、さまざまな業種・業務での活用例が登場している。

パナソニック コミュニケーションズでは、IP-PBX「IP-Digaportシリーズ」と文字メールにも対応するコードレス端末「VB-C911A」を組み合わせたデジタルコードレスシステム「J-3000e」をコアとして、業種・業務に特化したアプリケーションの提案に力を入れている。実際の提案・導入例を交えて、同システムの有用性を紹介していこう。

学校の危機管理に効果を発揮

まず、市場での関心がこのところ急速に高まっているのが、学校向けの緊急通報システムとしての活用である。教育機関では、相次いで起こっている不審者による事件や自然災害に対応するための危機管理体制強化が重要

な課題となっているためだ。

某市の教育委員会では、小学校の危機管理体制強化の一環として、市立小学校全11校にJ-3000eを使った校内連絡システムを導入した。同市では、従来から防犯ビデオや防犯ブザーによる対策を施していたが、危機回避へのより迅速な行動を可能にするには、映像の記録や音による通知だけでなく、声で連絡できる仕組みも必要と考えた。

導入先の一校であるA小学校では、校長、教頭、学年主任を中心に各先生が計30台のコードレス端末を携帯し、緊急時の迅速な連絡や対応、先生同士の打ち合わせなどができるようにしている。

また、IP-Digaportを校内放送システムと接続しているため、コードレス端末からの全校放送も可能。ユーザー側の使い勝手に合わせて任意に機能設定できる3つのソフトキーには、校内放送への接続、職員室の電話機呼び出し、保健の先生の端末呼び出しを割り当て、状況に応じた連絡業務をワンボタンで行えるようにした。もちろんコードレス端末は、外線用電話機として警察や消防署などへの緊急通報にも使用できる。

同校では、こうした危機管理用の仕組みとしてだけでなく、運動会や学習発表会などの行事でも、先生同士の連携をスムーズに行うための仕組みとしてコードレス端末を有効活用していく考えだ。

介護施設でのケア業務を効率化

高齢化時代の到来とともにマーケットが拡大している介護福祉業界でも、事業所用デジタルコードレスを有効活用しようという動きが目立ってきた。パナソニック コミュニケーシ

ンズでは、グループ会社の松下電工が提供する介護施設向けケア情報システム「ケアホン」とJ-3000eを連携させ、入居者と介護スタッフの円滑なコミュニケーションを実現できる仕組みを提案している。

その先進ユーザーとなったのが、介護付有料老人ホーム ナイス・ケア星が丘(大阪府枚方市)である。

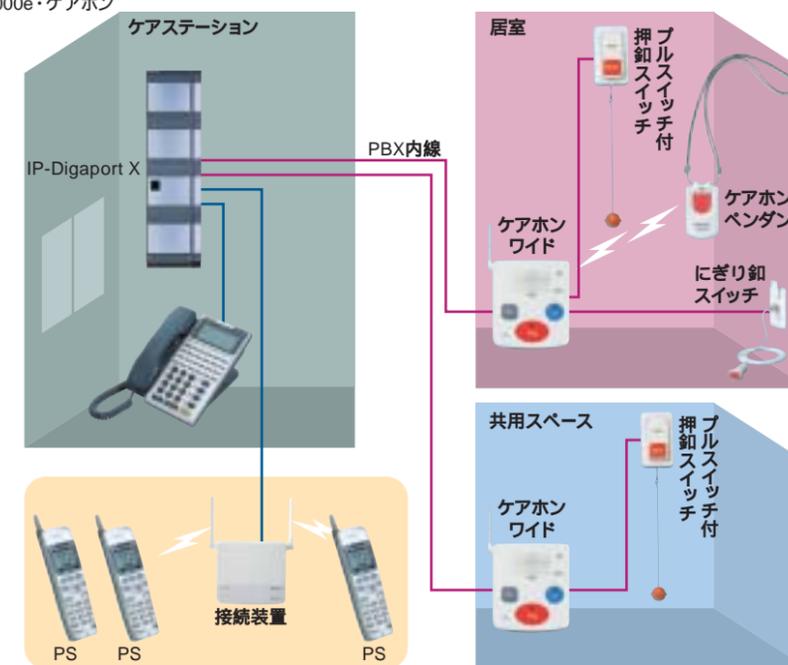
昨年12月にオープンしたナイス・ケア星が丘では、全54の居室にケアホンワイドを1台ずつ設置。トイレに「プルスイッチ付押釦スイッチ」、ベッドには「にぎり釦スイッチ」、さらに入居者が携帯できる「ワイヤレスペンダント発信器」も配備した。これらスイッチのボタンを押せば、スタッフが持っているコードレス端末(計35台導入)に、呼び出し音とともに部屋番号や入居者名が表示される。また、共用のリビングルームや浴室などにもケアホンワイドを設置しており、館内のどこからでもスタッフに連絡がとれる。

このシステムであれば、事務所(ケアステーション)を離れている場合でも入居者からのコールに迅速に対応できる。しかも、単なる呼び出しシステムではなく、ケアホンのスピーカーホン/マイクとコードレス端末の間で会話ができるため、入居者の状況確認も電話音声でスムーズに行える。実際、部屋まで足を運ばなくても済む用件の場合も少なくないことから、スタッフの作業効率化にも役立っている。

同施設では、作業中などでどうしても電話に出られないケースも考慮し、一定時間呼び出した後に他のスタッフ、さらに事務所の固定電話機にコールを自動転送するように設定。二重三重の対応体制を敷いている。

J-3000e・ケアホン連動システムは、ユーザーへの提案、導入・施工を手がける通信機器ディーラーにとっても非常に扱いやすい商材といえる。デジタルコードレスシステムの交換機(IP-Digaport主装置)のアナログ内線としてケアホンワイドを接続するという簡単な設置ができるからだ。さらに、松下電工ではケアホンに加え介護をサポートする多彩なケア情報システムをラインアップしており、より付加価値の高いシステムの構築も行える。

図2 ナイス・ケア星が丘のJ-3000e・ケアホン連動システム構成イメージ



文字メッセージの有効活用を推進

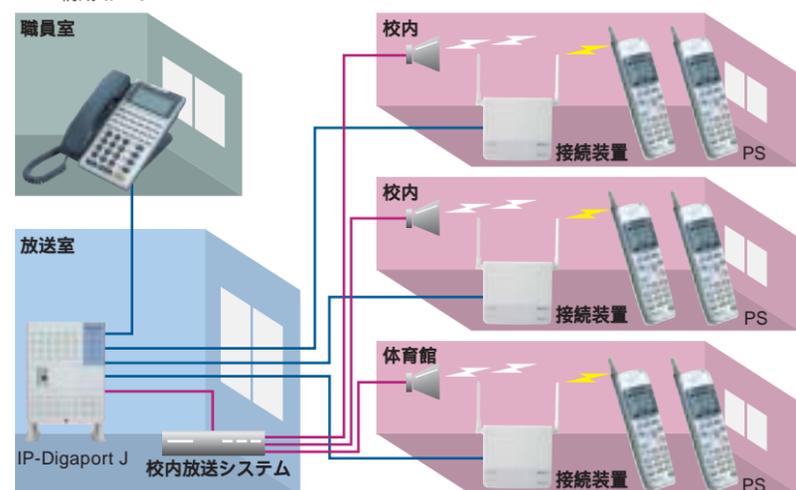
さて、J-3000eは、コードレス端末間で最大32文字(全角)までのメッセージをダイレクトにやり取りできるショートメッセージ機能が特徴の1つだが、この利便性をさらに高めるアプリケーションが「クイックメール」である。これは、事務所などのPCから最大16台のコードレス端末に文字情報をダイレクトに表示できるシステムである。また連絡事項の重要度や緊急度によって、端末側のディスプレイのバックライト色(黄緑・赤)や点滅周期、着信音・バイブレーションの組み合わせを端末側の設定状態にかかわらず、送信側のPCで送信のつど、自由に設定できる。さらにソフトウェア開発会社の島津エス・ディー(京都府京都市)が提供するサーバー・クライアントソフトを連動すれば、業務連絡用の定型メッセージや送信先の端末グループなどを設定しておくことで、簡単操作で送信できる。

文字メッセージを利用したシステムは病院のドクターコールシステムとして採用実績が上がっている。今後は、物流業における集荷場や倉庫内のトラック誘導、ホテル・旅館業でのルームメイキングや宴会場の配膳などの業務連絡、工場のライン障害通知といった多様な業種・業務への広がりも期待できそうだ。

図3 クイックメールの端末画面例



図1 A小学校の校内連絡システム構成イメージ



パナソニック コミュニケーションズ株式会社 ネットワークカンパニー
〒223-8639 横浜市港北区綱島東4丁目3番1号 TEL:03-3491-9191(代表) http://panasonic.co.jp/pcc/